

平成21年度農林水産物等輸出課題解決対策事業実施報告書
(課題名：日本産切り花輸出における輸送方法標準化実証調査)

1. 事業実施主体の概要

1 名称、主たる業務の内容

(フリガナ) サイタノホクゾンホクナフキョセンター

名称：財団法人日本花普及センター

主たる業務の内容：

財団法人日本花普及センターは、都道府県や花き産業関係団体・企業等の賛助会員を有し、これら団体等の協力・支援を受けて、①花の普及に関する活動の実施及び推進、②花きに関する調査・研究活動の実施、③花と緑を通じた国際交流の推進等に関する事業を実施している。

2 所在地、担当者連絡先

所在地：〒103-0004

東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階

担当者：財団法人日本花普及センター 企画調査課長 本田 繁

連絡先：03-3664-8739

2. 事業の目的

日本産切り花輸出の競争力低下の原因となっている輸送コストの削減を図るため、現在、各事業者で行われている輸送方法等について客観的実証調査をもとに手順等を検証し、この結果を取りまとめ輸出に取組む関係者の手引書として広く普及し、その活用を促すことにより、各事業者の効果的な輸出促進に資するものとする。

3. 課題の概要

日本産花きは、生産・育種技術において、世界で高い評価を得ており、ことに近年の経済成長が著しく花き市場の潜在力が大きい近隣アジア諸国を始め欧米諸国においても依然として高いものがある。しかし、輸出経験が乏しいため、輸送コストが割高となってしまう、現地での許容範囲を超える単価となっている。これでは、日本製品のメリットを帳消しにしてしまう「割高感」が、いずれの国においても導入のネックになっている。

これを解消するため、梱包方法の改善による輸送効率の向上を各事業者により推める必要がある。しかし、経験不足により効率が非常に悪く、各事業者は行き詰まりを

感じており、持続可能な輸出活動にはまだ至っていない。

一方で、卸・仲卸による輸出が加速する中、各事業者ごとに創意工夫がなされ、各自の努力によって取組まれるのは良いことではあるが、これが進行するにつれ、そのやり方が固定化し、業界全体としては複数の方式が乱立して統一されず非効率となってしまう恐れがある。

これらのことから、日本産切り花の輸出がスタートした今、この日本産切り花の輸送方法の効果的な手法等を客観的な調査をもとに検討し、効率的な輸送方法を提示することが求められている。

4. 課題の解決手法

現在、実際に行われている輸出用リパックは、各事業者が試行錯誤で行っているが、効果的なパッキングが出来ていない上、輸出用の箱の詰め替え等に手間がかかっている。

そこで、これらを解消するために、輸出用の輸送技術等について、実際の輸送シミュレーションによる客観的実証テストをもとに、誰にでも分かるような方法を取りまとめ提示することが必要である。

また、この調査結果を輸出に取組む事業者の手引書として広く普及し、この活用を促すことで、各事業者の効果的な輸出促進に資するものとする。

5. 事業成果

(1) 貴重な切り花輸出における客観的データの収集

当事業で行なった、輸送シミュレーションにより、これまで各事業者で行なわれてきた取り組みを客観的データとして整理したことで、主要切り花品目（グロリオサ、オキシペタラム、バラ、デルフィニウム等）の輸出における輸送方法等の効果的な手順についての検証結果とともに、今後切り花輸出を取組むに当たっての客観的判断基準を示すことができた。具体的な内容は以下のとおりである。

ア. 圧縮梱包の有効性の実証

これまで、品質を重視するあまり、過保護な梱包方法となっていたが、今回の調査により、より多くの梱包本数を詰めこむことが可能であるということが実証できた。例えば、グロリオサで、60～80本（15kgボックス）の圧縮梱包が可能であるということが、実証できた。これにより、日本産切り花輸出の輸送コスト削減が可能となった。

イ. 保水資材の効果的な使用の実証

これまで、切り花輸出では、殆どの場合で保水資材（ゼリー等）の付

け替えがされていた。ところが、今回の実証調査により、トルコギキョウ等で、仕向け地及び品目によっては乾式でも問題がないということが実証できた。また、保水ゼリーだけでなく、保水シートの有効性も確認できた。更にグロリオサやオキシペタラムは、通常国内流通で既に保水ゼリーがつけられており、仕向け地にもよるが、これを付け替えなしでそのまま輸送しても問題がないということが分かった。これらのことにより、効果的な保水資材の使用により、作業時間の短縮及び資材コストの削減が可能となり、更なる輸送コストの削減が可能となった。

ウ. リパックを行なう環境が与える品質への影響について

今回の調査で、梱包時の温度条件が切り花の品質に大きく影響するということが分かった。保冷施設内での梱包を行なうか、差圧通風予冷を行なうことにより、段ボールの中の温度を効果的に下げることが実証された。これらのことから、今後輸出を行なう上での作業施設の条件の整備等が取組むべき課題として明らかとなった。

(2) 業界としての切り花輸出における方向性の明示

当事業により、複数の輸出実践者の立会いのもと、これまで各自の経験を元にバラバラに行なってきた梱包方法や基本的な考え方について、業界の標準パターンとして取りまとめることができた。これは、現在の国内流通では、輸送方法の経験的な方法により梱包用の段ボールが無数に出回り、非効率な流通構造が出来上がってしまっているため、これを取りまとめるのは非常に困難な状況にある。そこで、切り花輸出では、今回、標準ボックス（3種）による試験を元にした方法を、輸出への取り組みがスタートしたこのタイミングで明示できたことは非常に意義深く、業界が共通の認識を持ち、効率の良い流通構造の構築への方向づけができた。

(3) 業界初の切り花輸出における輸送方法の手引きとして活用可能

当事業により取りまとめた調査結果は、切り花輸出を取組む上での手引書としての利用が可能で、今後切り花輸出に意欲のある者の幅広い活用が期待できる。

更に、輸送の鮮度保持技術について、切り花輸出に重点を置いてまとめられた資料は、これまで無かった。今回取りまとめた調査報告書では、切り花輸出における鮮度保持技術等についても細かく整理されており、業界関係者による幅広い活用が期待される。

一方で、多品目小ロット型の切り花輸出は、現在流通業者主体で行なわれているが、今後持続可能な輸出促進を行なうには、生産者の協力が必要不可欠となる。本調査結果は、切り花輸出の輸送方法に関する情報を細かく整理した業界初の資料として、効

果的に知識を得ることができ、今後流通業者と生産者との協力関係を構築する上で貴重なコミュニケーションツールとしての活用が期待できる。

6. 報告書の公開

本事業による調査結果を「日本産切り花輸出における輸送方表標準化実証調査報告書」として取りまとめ、都道府県花き担当者、花き関連機関・団体等、全国花き輸出拡大協議会会員等に広く配布した。